

座間支援学校 学校運営協議会 議事録			開催日	令和7年5月27日（火）	
会議名	令和7年度 県立座間支援学校 第1回学校運営協議会				
開催方法	・書面      ・Teams      ・散開 <span>・集合</span> ・その他（      ）				
時間	開始時間	9：45		終了時間	11：30
場所	会議室			人数	委員8名 教職員12名

# 1 校長あいさつ

座間支援学校は今年で47年目を迎える。肢体不自由教育部門、知的障害教育部門を設置しているが、83.6%が知的障害教育部門の生徒である。教職員は166名。その他スクールバス介助員や通学支援員等を含めると180名ほどである。地域の方々に支えられて学校運営を行っている。まずは座間支援学校のことをよく知っていただくことが必要と考える。説明が多くなるかもしれないが、疑問等あれば忌憚のない意見をいただきたい。

# 2 会長・副会長について

事務局提案を了承

○会長あいさつ

理学療法士として北里大学病院に入職した。座間高校出身で、当時から座間支援学校との交流があった。小児専門の理学療法士の立場からも、障害のあるなしにかかわらずこれからの未来にむけて共に考えていくことが必要であると考えている。よろしくお願いいたします。

# 3 委員自己紹介（略）

# 4 教職員自己紹介（略）

# 5 学校評価部会

○今年度の学校目標について（副校長より）

- ・本校のミッションを改めて確認する。端的に5つにまとめた。「多様な教育ニーズに応じた専門性の高い指導」「センター的機能の充実」「自立と社会参加」「安全安心な校内体制」「地域との連携を生かしたインクルーシブ教育推進」である。これらを取り入れながら、昨年度委員の皆様にもご意見をいただき4年間の目標を設定した。
- ・今年度の目標について説明する。各項目の具体的取り組みは、このあと各グループリーダーが説明するので、ここでは大枠について示す。
- ・教育課程、学習指導について、ICTを活用した授業を推進していく。
- ・児童・生徒指導・支援について、様々な専門性を持ったスタッフと教員とがチームとして児童・生徒を組織的に育てていく。

- ・進路指導・支援について、卒業後の生活を見据えた自立力や生活力の充実に向け、自ら決めていく力をつける支援を系統的に行う。それらを本人、保護者と相談しながら決めていく。
- ・地域等との協働について、近隣校との様々な協働が予定されている。新たに座間市立西中学校との交流も計画していきたいと考えている。JA との協働もさらに深化させていきたい。引き続きセンター的機能の充実を図り、インクルーシブ教育の推進について理解啓発を図っていく。
- ・学校管理、学校運営について、昨年度の運営協議会でご意見をいただき、児童・生徒が訓練をさせられるのではなく、自ら防災意識を高め、主体的に取り組むことを考えていく。教職員の働き方改革についても業務のスリム化への取り組みに努めていく。

○各学部、校務グループの今年度重点取組について（各総括教諭）

- ・パワーポイント資料を基に説明（校務グループは時間の都合で支援連携グループのみ説明）。

○意見交換（進行：会長）

- ・（委員）高等部の取り組みについて特に注意して聞かせていただいた。座間高校とももつと何かできることがあるのではないかと感じた。防災について、本校でも力を入れている。情報交換をしながら連携できればよい。視覚的に訴える点では AR や VR の活用も考えられる。支援学校の生徒にとっても効果的なのではないか。
- ・（委員）防災について、体験学習をすること。厚木に神奈川県総合防災センターがあり、体験ができる。より実践的な場として活用されたらよいのではないか。
- ・（委員）体験は大切なことである。
- ・（委員）神奈川県総合防災センターは、自身も利用し体験した。VR もある。座間市の中学校でも市の消防局による体験をしてもらっている。質問だが、防災食について、県で用意される備蓄食料があるのか。→県から配備される備蓄食料が児童・生徒と職員 3 日分ある。
- ・（委員）防災ポスターは生徒が端末を使用して作成している。座間市では令和 2 年度 ICT 機器を全校配備した。活用が進まない中、まずは校務での活用を推進し、教員自身の業務で ICT 機器に慣れ、授業での活用につなげて行きたいと考えた。現在では授業でも活用できている。情報モラル教室について、特に ID やパスワードの管理について大事なので、今のうちからしっかり教えていく必要があると考えている。
- ・（委員）座間支援学校では「体験」を大切にしている印象を受けた。それは子どもたちにとってもわかりやすいと感じる。自己選択・自己決定について、福祉の現場でも重視されている。障害の程度にかかわらず選択していくことが必要。学齢期から取り組むことは非常に有効と考える。生徒会を中心に学校活動に大きく反映されていることが良い経験となっていると感じる。子どもたちが発信したことが大人に受け止められるといったことを、学校にいるうちに先生方からサポートを受けながら経験できることが重要と考える。小学部段階から計画的に学びを広げ、つなげられる取り組みは、保護者にとってもわかりやすいと感じる。
- ・（委員）学校運営協議会での意見が反映されていることを感じる。小さい時から経験を多様に積むことが必要だ。
- ・（委員）2 月に放映されたテレビ神奈川のコーナーでは、生徒が野菜の POP 作りや袋詰めをしたことについて取り上げられた。体験は非常に大事だと考える。ちょっとしたことだが、今後も関わっていけた

らと思う。昨年 11 月の座間市民祭りでは、POP をパネルにして本部に掲示した。それを目にした市民の方からボランティアできないか、という問合せもあった。市民への PR の場として良いのではないかと感じた。

- ・(委員) 学校の方針については、全校保護者会でも説明があった。ICT の活用が度々出てくるが、保護者目線では漠然としていてわからない。抽象的なことを言われても具体的には何をしているのかが見えてこない。今後 ICT が浸透していく中、活用できる子、できない子がいると思う。具体的には何をやるのかが知りたい。「やっているのかな？」で情報が止まっている。機器を持ち帰るのか？例えばコロナ渦では全校がオンラインでつながる事例があったようだ。
  - ・(副校長) 昨年度の保護者アンケートでは ICT の活用状況について「わからない」が 4 分の 1 (26%) を占めていた。どういうことに使っているのかを具体的に示していければと考える。
  - ・(高 A リーダー) 高 A では導入されて間もないので模索している段階。時間がかかるとは思う。
  - ・(校長) 神奈川県では、昨年度急スピードで一人一台端末を整備した。小中学部は iPad、高等部はクロムブック。本校では研修に力を入れた。特に高等部では Google Classroom を活用し、授業の様子が大きく変化した。実際の授業場面を委員にも見ていただくなどして、知っていただければと思う。
  - ・(委員) 子どもたちが「できた」を感じる工夫を考えるには ICT はとても有効。一方で目の動きを妨げていく。幼少期ほど気を付ける必要があり、WHO ではスクリーンタイムを設定している。小さいときからの感覚経験を広げて、積み重ねていくことが重要。先生方は子どもの良さを捉えながら教育されていると感じている。小さいころからかかっている四肢麻痺の方が今 30 代。Line で様々な文章を送ってくる。そのような力があることに驚いた。教育分野の専門性、医療の専門性を持ち寄るチーム支援が重要ではないか。それが自己決定権につながると考える。また、防災教育について、液状化となった場合を想定し、垂直訓練も必要と考える。
- 質問として、センター的機能について、どのような役割をいうのか知りたい。
- (支援連携 GL) 地域の各学校から相談があったことについての助言や、教材の貸し出しをしている。さらに学校が組織的に支援力を高めることへの支援を行っている。
- ・(副校長) 地域に根付いた形でインクルーシブ教育を推進するために、今年度から座間市教育委員会の委員にメンバーとなっていた。
  - ・(校長) インクルーシブ教育のイメージは人によるが、センター的機能は「地域の中で一緒に学ぶ」ことを支える機能。特別支援学校で学ぶこともあるが、就学段階ではまずは地域で学ぶことについて、一緒に考え、同じ方向性をもって取り組んでいければと思う。どうぞよろしくお願いします。
  - ・(委員) 「どんな子かわからない」と思っていた子でもかかわることで「わかる」。しかし卒業後、就職先で悩むケースがある。特別支援学校で丁寧な支援を受けることもあるが、就職したときに分かり合えないという声を聞くと、やはりインクルーシブの取り組みが必要だと感じる。海外では、発達保障について焦らず一人ひとりのペースで受け止められる。座間支援学校での取り組みは地域の学校にも活きると感じる。
  - ・(副校長) 海老名市では「フルインクルーシブ」に取り組もうとしている。座間市での動きはどうか。
  - ・(委員) なるべく地域で見えていこうというスタンスで考えている。しかし、就学相談などを担当していて、保護者の意向もある。また、担当がインクルーシブ教育に関する研修に参加しているが、全体では理解が進んでいるのかというと難しい現状。
  - ・(委員) だからこそ、子どもたちに経験させることも大事と考える。

- ・(校長) まずは知っていただくことが重要と考える。

## 6 部会活動説明

### ○切れ目ない支援部会

- ・(支援連携 GL) 今年度も年 3 回を予定している。一昨年度は縦のつながりで考えた。昨年度は横のつながりで考え、インクルーシブについてアイディアを出し合ったり夢を語ったりした。今年度は昨年度に続き、横のつながりでインクルーシブを考え、参加者それぞれが身近なところからどのような取り組みができるか深めていきたい。思いを共有することで参加者が互いに元気になっていければと思う。

### ○防災部会

- ・(副校長) 昨年度、消防署や防災ボランティアのかたにメンバーとなっただき、これまで地域の防災課題や必要な準備について話し合ってきた。防災・避難の観点から本校では会議室寄り階段の中央手すりを撤去した。今年度も地域と一体となり取り組んでいきたい。年 2 回の実施を予定している。
- ・(校長) 部会の構成員には、運営協議会のメンバーにも参加していただきたいと考えている。改めて連絡する。

### おわりに

- ・(校長) 説明ではいろいろな用語がありイメージしづらい部分があったかもしれない。都度聞いていただければと思う。特別支援学校でも学習指導要領に基づき授業を行っており、その中でも体験的な学びや繰り返しの学びは非常に重要となる。しかし、皆様から見るとカリキュラムがわかりにくいかもしれない。特別支援学校の学びが少しでもイメージできれば地域とのつながりも進むと思う。引き続きよろしく願いいたします。
- ・(会長) 本日もたくさんの学びがあった。1 年間よろしくお願いします。

以上